

JMTDR（国際救急医療 チーム）設立40周年

函館市医師会
函館新都市病院

あさ い やす ふ み
浅井 康文

今年は関東大地震（1923年）から100年、北海道南西沖地震（1993年）から30年、東日本大震災（2011年）のから12年です。第28回日本災害医学会が盛岡市で開催され、最終日の3月11日に、JMTDR/JDR設立40周年の記念シンポジウムが開かれました。国際救急医療チームはJapanese Medical Team for Disaster Relief (JMTDR)、現在は国際緊急援助隊 (JDR : Japanese Disaster Relief) と呼称されています。

JMTDRは、カンボジア難民支援として1979年から日本政府が医療チームを派遣、その教訓を踏まえ1982年に設立されました。1987年には国際緊急援助隊法が制定され、救助チーム・医療チーム・専門家チームの派遣などを中心とした人的な支援体制が確立されました。1992年に成立した「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律 (PKO : Peace-keeping Operations)」に基づき、紛争起因はPKO、JDRは自然災害と線引きされました。JDRは、GO（政府組織）で、国連の要請主義に従い、そしてボランティア組織で、派遣期間は原則2週間です。

筆者は道立札幌医科大学に在職中は、2000年まで法律によりJMTDRに登録していても、地方公務員は海外派遣に加わることができませんでした。1995年1月17日の阪神・淡路大震災の際、例外的に政府の要請（村山富市内閣で、旭川市出身の五十嵐広三内閣官房長官）で、JMTDRとして神戸市・東灘区へ派遣されました。その後2000年に身分（地方公務員：公務外であれば、参加可能。JICAより業務を委嘱、覚書を締結）、補償（労働者災害補償：地方公務員災害補償法）などの問題が法律で改正されました。2001年1月14日の中南米エル・サルバドル大地震では、地方公務員として初めて派遣されました。政情不安下でライフルを持った軍隊に守られての医療活動でした。

2003年10月より、国際協力事業団 (JICA) が独立行政法人となり、国際協力機構 (JICA) が発足しました。初代理事長に緒方貞子氏が就任し、New JICAとして皆盛り上がりました。現場主義で、語録として、「そういうことは頭の問題はなく、体の動かし方の問題なのよ」「人道機関はね、理屈が通らなくても、生きて人を帰すことのほうが大事なのよ」などがあります。

インドネシアのスマトラ島沖地震は2004年12月26日に発生し、大津波により被害は10か国に及びまし

た。先遣隊としてバンダアチェに派遣され、そのまま第一次隊となりました。この地域はインドネシアからの独立運動が一番盛んな特別区であり外国人立ち入り禁止でしたが、軍隊に守られての派遣でした。この地震では、スリランカ（1次・2次）、モルディブ、タイ、インドネシア（1次～3次で自衛隊に引継ぎ：All Japan）と4か国への同時派遣で、JICAの機材、医薬品備蓄全部が払出しの状態となった大掛かりな派遣でした。

派遣時にあたっては、大学からのご理解と、職場に残っていただいている方々への感謝も忘れられません。活動としては、医療調整員として、2005年に鈴木靖先生（元北海道消防学校、札幌市スポーツ局）がインドネシア地震災害（ニアス島）で活動しました。医師としては、2006年に丹野克俊先生（元札幌医科大学、森山メモリアル病院）がインドネシア・ジャワ島中部地震、2015年にネパール地震で札幌医科大学救急医学の沢本圭悟先生の派遣があります。JMTDRの1979年から2022年までの医療チームは、1986年以前：計22チーム（延べ482名）、1987年以降計59チーム（延べ約1,000名）の派遣実績があります。現在の緊急援助の世界は昔と較べて隔世の感があり、派遣の医療班の規模は、他国と同じように巨大化しています。WHO（世界保健機関）のタイプ2の導入（外来・手術・入院機能を持つ野外病院を展開）や、ASEAN（東南アジア諸国連合）をはじめとする災害医療に携わるチームの成長など、新しい展開が進んでいます。

JMTDRは、日本の国際協力の中で貢献が最も目に見える協力の一つです。今年の2月6日発生 of トルコ・シリア大地震では、トルコ政府の要請を受けて、救助チームは発災当日に出発、それに引き続いて医療チームも出発しています。今後とも、災害に対する、シームレス・Sustainableなフィードバックやフォローが必要です。

2005年に災害派遣医療チーム (DMAT) が発足しましたが、阪神・淡路大震災での教訓を生かしており、DMATの研修では、JMTDRの研修のノウハウが多く用いられています¹⁾。

文献

- 1) JMTDR設立40周年記念寄稿集、JICA、1～30、2023

